

「世界津波の日」に関する国連開発計画(UNDP)ワークショップに参加しました (2017/5/17-19)

場所：Amari Watergate Hotel, バンコク・タイ
テーマ：津波, 世界津波の日, 減災, アジア・太平洋

平成 29年 5 月 17-19 日にバンコクにて国連開発計画 (UNDP) による「Regional Inception Workshop: Reducing the Loss of Lives of Schoolchildren from Tsunamis in Asia-Pacific through Better Awareness and Preparedness」が開催されました。このワークショップは、去年設定された「世界津波の日」のキャンペーンのひとつで、世界中の人々の津波防災意識を向上させることを目的として開催され、まずは学校での防災教育から行うことが決定されました。3 日間のワークショップでは、主にこれまでの活動のレビュー、津波ハザード評価、対象学校の選び方、減災教育の内容と教材、これからの予定などについて議論されました。

当研究所からは小野裕一教授（情報管理・社会連携部門）とサッパシー アナワット准教授（災害リスク研究部門）が参加しました。サッパシー准教授は、昨年作成した「過去 400 年間のデータに基づいた津波ハザード評価」について紹介し、更に社会・経済的な脆弱性のパラメータを導入し、これからの対象学校を選択するための情報を提供しました。また 2011 年の東日本大震災以降、当研究所が開発した減災教育の教材と内容についても紹介し、他の参加者と意見交換をしました。小野教授は国際貢献について、これから当研究所が、どのように支援・貢献できるかなどについて、意見交換を行いました。



UNDP 担当者による説明の様子



サッパシー准教授による発表の様子



グループ討論の様子



意見交換の様子